

につなげるか

本町議会では、6月定例会の中で「産業振興について」と題して討論会を行いました。私たちの町は大山山麓の肥沃な大地や良好な魚場を有する農林水産業の活発なまちであります。開山1300年を控え、いかに観光や他の産業の振興につなげるか、今こそ問われています。

各議員の意見

大杖議員

第一次産業は、生産量の増大から付加価値の高い生産物に集中する必要がある。

野口俊議員

農業では、農地の集約化と新規就農者の確保が必要である。漁業では栽培型漁業に重点をおくべき。

大森議員

阿弥陀川水系の良さを見直して、全域にブランド米ができないか。農家への所得補償や生産物への価格補償も必須である。

西山議員

国史跡・大山寺旧境内は国立公園にあるという環境を大いにPRすべき。

野口昌議員

農業分野で所得補償制度が導入される。町も積極的に協力すべき。

吉原議員

生産物の6次産業化を推進して観光と農林水産業の2つの領域を連携し振興をはかるべき。

西尾議員

本町の暮らしやすい環境をもっとアピールし、米子のベッドタウン化をめざすべき。

森本議員

消費者に求められているものは何か。外に目を向けた高付加価値商品の開発に力を入れるべき。

門脇議員

産業振興は町づくりの一部、まちづくりは人づくり。人材育成という観点を持ちながら、ネットワークの強化が必要だ。

近藤議員

時間がかかっても大山に一流の工芸品をつくりたい。また、海や山での体験型観光を充実させたい。



新規就農者に育苗指導

米本議員

農業研修をさらに充実して、後継者を残さねばならない。基幹産業が衰退すれば他の産業にも影響が出る。

池田議員

不耕作地が増えると獣が圃場を荒らす。この厄介ものを食肉処理して加工品として本町の産物にしていきたい。

岡田議員

体験型観光の実施で観光客を通過型から滞在型に。廃校舎や古民家の再利用でサテライトオフィスの誘致を。

熱中討論

いかに産業振興



山開き前夜祭でにぎわうたいまつ行列

大原議員

町の賑やかさをイメージ戦略として発信したい。大山町旗の山・川・海の豊かな環境を全産業分野で振興につなげたい。

加藤議員

町の恵まれた土壌を活かしきれしていない。もつと差別化した高付加価値製品の開発に支援すべき。またその販売戦略も強化したい。

こんな提言も…

野口昌議員

観光は大山が主体。縁結びのご利益がある切り口も考えてほしい。

大森議員

大山と仁王堂公園、妻木晩田遺跡、名和長年ゆかりの地、退休寺など、里部との連携が必要。

吉原議員

大山町のよさを伝えるボランティアガイドがもつと必要だ。

米本議員

大山の旅館で地元の野菜が出ているかという点と出ていないのが現状。農業と観光のもつとタイアップが必要。

近藤議員

近年の山ガールのブームのうちに、一流の食材を使った一流の宿泊施設の整備が大事。

岡田議員

森林セラピーなど健康と観光の連携を。

西尾議員

福祉と人の交流がカギ。



にぎやかな観光地を目指して

討論会を終えて

議員全員が共通に認識していることは、農林水産業と観光業の連携がまだまだ足りないという点でした。その他、開山1300年に向けて、あらゆる産業との連携が必要です。またそのことが、地元の雇用を支える商業や製造業の振興につながります。人と人とのネットワークの強化が今こそ必要です。より賑やかで活力のある町づくりに私たち議会も提言を重ねます。